

富士見町景気動向調査報告書

～小規模事業者・中小企業者景況基本調査～

2024年（令和6年）4月から6月

- 1 調査期間 2024年4月～6月（第4四半期）
- 2 調査対象 富士見町内小規模事業者・中小企業者
- 3 回答状況

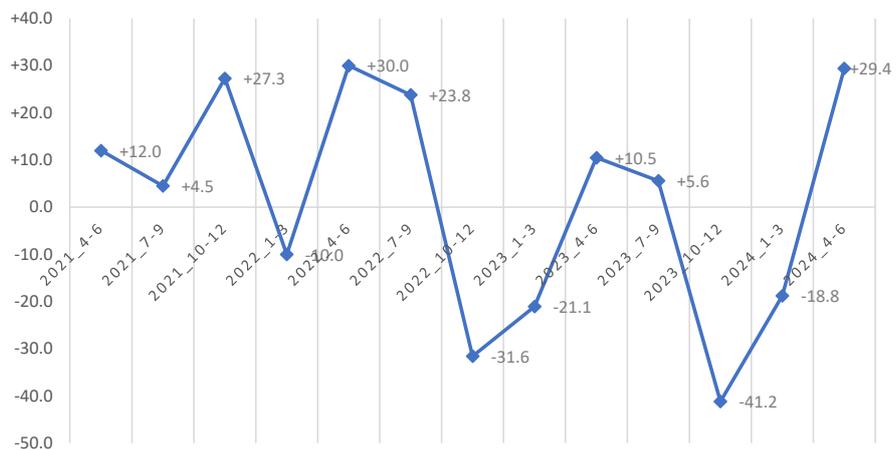
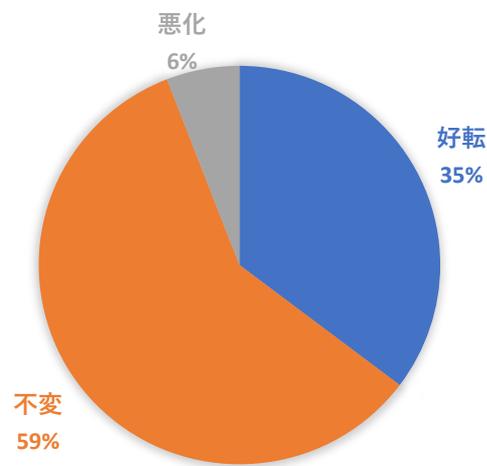
製造業	9社
建設業	2社
飲食業	2社
小売業	1社
観光業	3社
計	17社
- 4 調査項目
 - ① 3か月前と比べて
 - ② 前年同期と比べて
 - ③ 3か月後の見通し※ 経営者が受注額（販売額）・売上高・営業利益等から主観的に判断しています。
- 5 業況DI（Diffusion Index）とはゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表し、マイナスの値で景気の下向きを表しています。

Volume 1 3

主管 ふじみまち産業振興センター

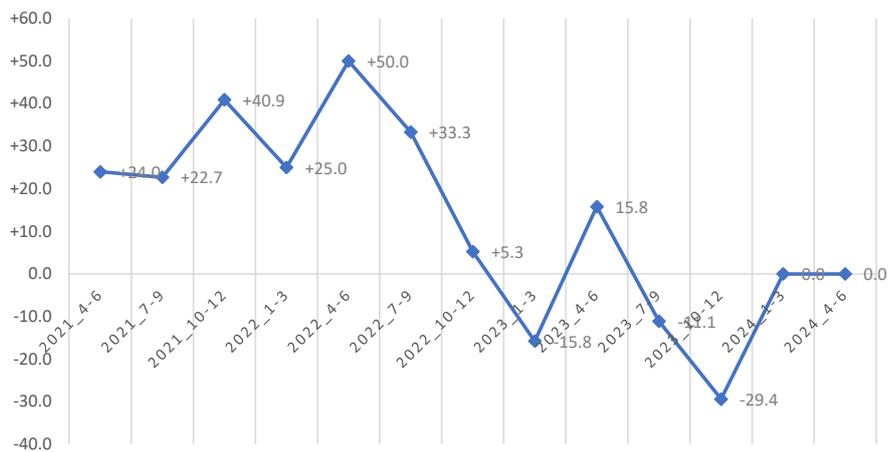
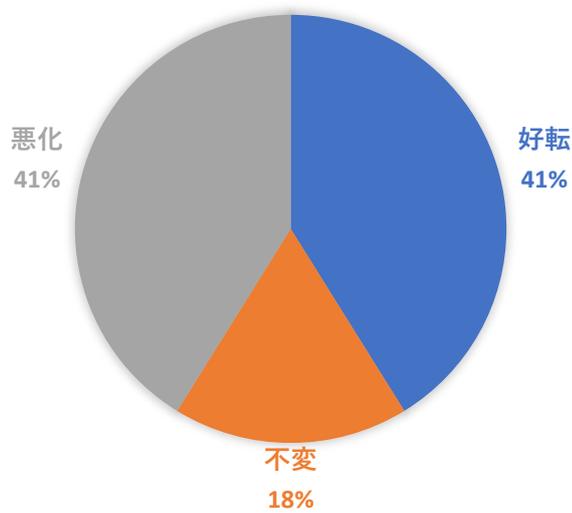
<調査項目① 3か月前と比べて>

		好転	不変	悪化	計	業況DI	前回調査比
全体	実数	6	10	1	17		↗
	構成比	35.3%	58.8%	5.9%		+29.4	
製造業	実数	1	7	1	9		↗
	構成比	11.1%	77.8%	11.1%		0.0	
建設業	実数	1	1	0	2		→
	構成比	50.0%	50.0%	0.0%		+50.0	
小売業	実数	1	0	0	1		→
	構成比	100.0%	0.0%	0.0%		+100.0	
飲食業	実数	2	0	0	2		↗
	構成比	100.0%	0.0%	0.0%		+100.0	
観光業	実数	1	2	0	3		↗
	構成比	33.3%	66.7%	0.0%		+33.3	
サービス業	実数						
	構成比						



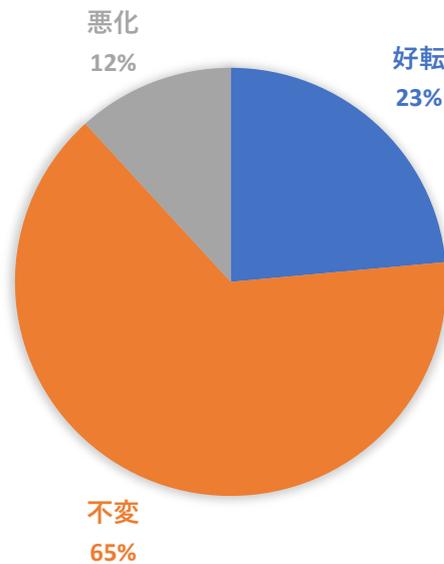
<調査項目② 前年同期と比べて>

		好転	不変	悪化	計	業況DI	前回調査比
全体	実数	7	3	7	17		→
	構成比	41.2%	17.6%	41.2%		0.0	
製造業	実数	1	2	6	9		→
	構成比	11.1%	22.2%	66.7%		-55.6	
建設業	実数	1	1	0	2		↗
	構成比	50.0%	50.0%	0.0%		+50.0	
小売業	実数	1	0	0	1		→
	構成比	100.0%	0.0%	0.0%		+100.0	
飲食業	実数	1	0	1	2		↘
	構成比	50.0%	0.0%	50.0%		0.0	
観光業	実数	3	0	0	3		↗
	構成比	100.0%	0.0%	0.0%		+100.0	
サービス業	実数						
	構成比						

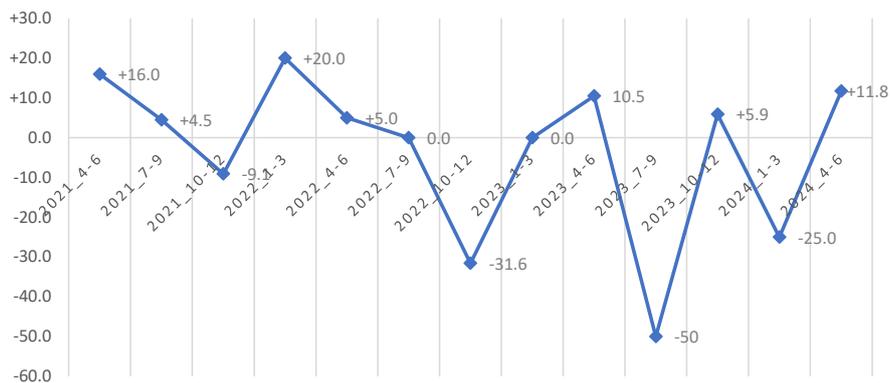


<調査項目③ 3か月後の見通し>

		好転	不変	悪化	計	業況DI	前回調査比
全体	実数	4	11	2	17		→
	構成比	23.5%	64.7%	11.8%		+11.8	
製造業	実数	2	6	1	9		→
	構成比	22.2%	66.7%	11.1%		+11.1	
建設業	実数	0	2	0	2		↗
	構成比	0.0%	100.0%	0.0%		0.0	
小売業	実数	1	0	0	1		→
	構成比	100.0%	0.0%	0.0%		+100.0	
飲食業	実数	1	1	0	2		↘
	構成比	50.0%	50.0%	0.0%		+50.0	
観光業	実数	0	2	1	3		↗
	構成比	0.0%	66.7%	33.3%		-33.3	
サービス業	実数						
	構成比						



業況DI値推移 (3か月前と比べて)



<経営者の眼(見方)>

事業主コメント	業種
市況の動きが悪く、物価状況局面の中価格競争激化。しかしながら景気の底は脱した業界もあるとの話も聞こえてきている。	製造業
製造経費は相変わらず高騰を続けていますが、販売価格への転嫁もすみ利益は比較的確保できています。しばらくは状況にあわせた値上げ交渉が必要になると思います。今後もブランド力の向上を目指すとともに、販売先を選んだうえでの新規販売先の獲得に注力していきます。	製造業
見通しが見えない。	製造業
春までの約半年間続いた受注低迷から大幅に改善し、円安による仕入価格高騰など嫌気されることのあるものの、見積依頼数・受注数ともに伸びが見られる。ただ、7月に入り円安が更に進行していることが今後の仕入れ価格の更なる値上げにつながると見られ、先行きについては楽観視できない	建設業
夏季の避暑利用を期待します。	観光業
昨年秋からの下落が回復しない。メインの顧客の中国の需要が落ち込んだままで、他の顧客もあまり振るわない。長期の見通しはわからないが、3カ月先もあまり変わらない情報をいただいている。新規の打診のあるところもあるが、どのような結果になるか予想がつかない。	製造業
暑さがいきなり厳しくなり、慌てて避暑でやって来るお客様の問い合わせが増えている。ただ、一年を通すと秋冬の出が前倒しになるのではないかと心配している。多少、インバウンドもある。	観光業
昨年の同時期に比べて、来客数と売り上げ共にやや減少した。昨年の同時期はコロナ対策の緩和や、GOTO等でゴールデンウィーク前後も観光客が多く見られていた。本年はそういった企画やキャンペーンも特になく、ゴールデンウィーク後には客足がひいた。この先の夏は、周遊券もスタートするので、期待したい。	飲食業
売上の大きい更新が重なった。毎年のことではないので今年は特別と思い、今まで通りの仕事を継続していけるように注力したい	小売業
試作・開発途中の案件が量産に進むことで、受注確保が見込まれる。	製造業
来年度から6月のTHE CAMP BOOKの誘致を中止してほしい。収益よりも損害が大きい。	観光業
前年度まで好調だったEV関係のモーター関連今年度前半受注量が減ったため現在は厳しくなっている、しかし半導体製造装置の金型が今年から新規受注になり全体量が少ない中でも何とか持ちこたえてる感じ。 車関係が動くとの話がありましたが、メーカーによる不正問題でストップになっているようです。今年度の後半からはモーターコア金型の受注は戻ってくる話は頂いている。 受注先が新たな積層技術開発により2~3年後には世界シェアの大幅獲得につながるとの話がある。	製造業
例年並みに推移していますが、若干動きが出てきた気配を感じます。	製造業
売上高が今期は少なくなった。現場が雪のため長い工期にしたので減少しました。今後はまとまった大きな工事が何件かあれば良いと思っています。	建設業